



2014年12月期 第3四半期 決算説明資料

2014年 11月 6日
富士ソフト株式会社



目次

2014年12月期第3四半期 決算

- P3. 連結業績ハイライト
- P4. 主なグループ会社売上高・営業利益
- P5. 連結セグメント別売上高
- P6. 連結損益計算書
- P7. 連結貸借対照表
- P8. 連結キャッシュ・フロー計算書
- P9. 連結S I 事業の受注高・受注残高

2013年度から12月決算に変更

本資料に記載している「前同差」、「前同比」は、当第3四半期累計期間（2014年1月1日から2014年9月30日）に対応する前年の同一期間（2013年1月1日から2013年9月30日）と比較したものです。

● 連結業績ハイライト

売上高は単体を中心に連結各社が概ね好調だったことにより増収

◇売上高は、単体を中心に連結各社が概ね好調だったことにより、前年同期比106.1%の112,425百万円となりました。

営業利益は増益、経常利益、四半期純利益は持分法投資利益の減少により減益

◇営業利益は、サイバネットシステムが減益だったものの、単体およびヴィンクスなどが増益だったことにより、前年同期比102.6%の6,262百万円となりました。

◇経常利益、四半期純利益は持分法投資利益の減少により減益となりました。

(単位:百万円)

	2013年1-9月 実績	2014年12月期 3Q累計実績	前同差	前同比	2014年12月期	
					3Q累計計画	計画比
売上高	105,956	112,425	+6,469	106.1%	112,258	100.1%
営業利益	6,101	6,262	+160	102.6%	6,600	94.9%
営業利益率	5.8%	5.6%	△ 0.2		5.9%	
経常利益	7,323	6,816	△ 507	93.1%	6,776	100.6%
経常利益率	6.9%	6.1%	△ 0.8		6.0%	
四半期純利益	3,946	3,764	△ 181	95.4%	3,850	97.8%
四半期純利益率	3.7%	3.3%	△ 0.4		3.4%	

● 主なグループ会社売上高・営業利益

(単位:百万円)

	売上高				営業利益			
	2013年1-9月 実績	2014年12月期 3Q累計実績	前同差	前同比	2013年1-9月 実績	2014年12月期 3Q累計実績	前同差	前同比
富士ソフト	62,647	67,191	+4,544	107.3%	3,728	3,950	+221	105.9%
サイバネットシステム	10,961	11,604	+643	105.9%	775	488	△ 286	63.0%
ヴィンクス	20,909	20,977	+67	100.3%	1,156	1,374	+217	118.8%
サイバーコム	5,589	6,007	+417	107.5%	265	307	+41	115.7%

※ヴィンクスの前年実績のうち、1-3月期については旧ヴィンキュラム ジャパンと旧ヴィクサスの単純合算値です。

※富士ソフトおよびサイバネットシステムは12月決算、ヴィンクスおよびサイバーコムは3月決算です。

※ヴィンクス、サイバーコムにつきましては「2014年12月期3Q累計実績」欄に2014年3月期第4四半期実績と2015年3月期上期実績の合算値を記載しています。

主なグループ会社売上高・営業利益のポイント

●富士ソフト

売上高は、主要顧客の携帯電話事業縮小の影響を受けたモバイル系が引き続き減少したものの、今後のビジネス拡大を見据えたライセンス、ハードウェア機器などの物販が進んだこと、および自動車・FAなどの機械制御系が好調だったことなどにより増収となりました。営業利益は物販の増加に伴う売上原価率の上昇や戦略プロダクトの展開、人材投資によるコスト増加などがあったものの、売上高の増加、およびシステム構築の採算性向上などにより増益となりました。

●サイバネットシステム

売上高は、教育機関での新規大型案件受注や主力の構造解析系ソフトウェアが機械製造業を中心として好調に推移し増収となりました。営業利益は、海外子会社において、人員採用が進んだことによる人件費増加や円安による為替換算の影響などにより減益となりました。

●ヴィンクス

売上高は、主要顧客のシステム投資が停滞したものの、消費税率変更に伴う特需や大手総合小売業向けビジネスが伸張り増収となりました。営業利益は、プロジェクトマネジメント力の強化や統合効果による業務効率化によりコスト削減を図り、増益となりました。

●サイバーコム

売上高は、ソフトウェア開発の全分野において好調であったこと、また、サーバ・ネットワーク構築案件や通信キャリア向け基地局増設案件などのサービス事業も伸張り、増収となりました。営業利益は、売上高増加に伴い増益となりました。

連結セグメント別売上高

(単位:百万円)

	2013年1-9月		2014年12月期		前同差	前同比
	実績	構成比	3Q累計実績	構成比		
売上高 合計	105,956	100.0%	112,425	100.0%	+6,469	106.1%
SI事業	99,188	93.6%	104,815	93.2%	+5,626	105.7%
システム構築	58,747	55.4%	58,820	52.3%	+73	100.1%
組込系/制御系ソフトウェア	28,596	27.0%	28,276	25.2%	△ 319	98.9%
業務系ソフトウェア	30,151	28.5%	30,543	27.2%	+392	101.3%
プロダクト・サービス	40,440	38.2%	45,994	40.9%	+5,553	113.7%
プロダクト・サービス	25,671	24.2%	31,448	28.0%	+5,777	122.5%
アウトソーシング	14,769	13.9%	14,545	12.9%	△ 223	98.5%
ファシリティ事業	1,548	1.5%	1,603	1.4%	+54	103.5%
その他事業	5,219	4.9%	6,006	5.3%	+787	115.1%

セグメント別売上高のポイント

●組込系/制御系ソフトウェア

3Q(7-9月)では自動車関連・FAなどの機械制御系や通信機器・基地局などの通信インフラ分野を中心に社会インフラ系が好調に推移しましたが、3Q累計では前年に主要顧客における携帯電話事業縮小の影響を受けたモバイル系が大幅に減少したことにより、前年同期比98.9%と減収になりました。

●業務系ソフトウェア

単体において、前年度に計上した損保統合案件や教育関連の大型案件の反動減があったものの、インターネットビジネス関連が伸長したことなどにより、前年同期比101.3%と増収になりました。

●プロダクト・サービス

単体におけるマイクロソフト製品を中心としたライセンスビジネスが好調に推移したことを主因に、前年同期比122.5%と大幅増収になりました。

●アウトソーシング

単体における主要顧客の経営統合の影響などにより、前年同期比98.5%と減収になりました。



連結損益計算書

(単位:百万円)

	2013年1-9月 実績	2014年12月期 3Q累計実績	前同差	前同比	2014年12月期 3Q累計計画 計画比	
売上高	105,956	112,425	+6,469	106.1%	112,258	100.1%
売上原価	80,827	86,557	+5,729	107.1%	86,058	100.6%
売上原価率	76.3%	77.0%	+0.7 ①		76.7%	
売上総利益	25,128	25,868	+739	102.9%	26,200	98.7%
売上総利益率	23.7%	23.0%	△0.7		23.3%	
販売費及び一般管理費	19,027	19,606	+578 ②	103.0%	19,600	100.0%
販管费率	18.0%	17.4%	△0.5		17.5%	
営業利益	6,101	6,262	+160	102.6%	6,600	94.9%
営業利益率	5.8%	5.6%	△0.2		5.9%	
営業外収益	*1 521	*2 591	+70	113.4%	-	-
営業外費用	488	364	△124	74.5%	-	-
持分法による投資損益	1,188	326	△862 ③	27.4%	-	-
経常利益	7,323	6,816	△507	93.1%	6,776	100.6%
経常利益率	6.9%	6.1%	△0.8		6.0%	
特別利益	514	31	△483 ④	6.0%	-	-
特別損失	1,191	161	△1,029 ⑤	13.5%	-	-
税金等調整前四半期純利益	6,646	6,686	+39	100.6%	-	-
法人税等合計	2,679	2,397	△281	89.5%	-	-
少数株主損益	21	524	+502	2425.8%	-	-
四半期純利益	3,946	3,764	△181	95.4%	3,850	97.8%
四半期純利益率	3.7%	3.3%	△0.4		3.4%	

*1 持分法による投資利益(1,188百万円)を除いた数値です。

*2 持分法による投資利益(326百万円)を除いた数値です。

損益計算書のポイント

① 売上原価率 (+0.7ポイント)

単体におけるライセンス売上比率の増加などにより上昇

② 販売費及び一般管理費 (+578百万円)

継続的に管理経費の抑制は行ったものの、人材強化のための採用費や営業強化の販売費などが増加

③ 持分法による投資損益 (△862百万円)

エース証券の減益に伴い減少

④ 特別利益 (△483百万円)

前年に子会社間の合併に伴う持分変動利益(ヴィンクス:455百万円)を計上したことによる反動

⑤ 特別損失 (△1,029百万円)

前年に固定資産減損損失(東証コンピュータシステム:885百万円)および子会社間の合併関連費用(ヴィンクス:117百万円)などを計上したことによる反動

連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	2013年12月期 期末	2014年12月期 3Q期末	前期末差
流動資産	51,907	55,372	+3,464
現金及び預金	14,345	14,000	△ 345
受取手形及び売掛金	28,260	30,919	+2,659 ①
有価証券	2,302	3,009	+707
たな卸資産	2,119	1,882	△ 236
繰延税金資産	1,742	2,531	+789
その他	3,137	3,028	△ 109
固定資産	102,615	101,778	△ 836
有形固定資産	69,493	68,078	△ 1,415
無形固定資産	8,100	7,543	△ 557
投資その他の資産	25,020	26,156	+1,135
資産合計	154,522	157,150	+2,627
流動負債	39,855	42,934	+3,078
買掛金	7,433	9,336	+1,902 ①
短期借入金	15,507	10,643	△ 4,863 ②
コマーシャル・ペーパー	4,000	6,000	+2,000 ②
未払費用・賞与引当金	5,746	6,834	+1,087
未払法人税等	275	2,333	+2,057
工事損失引当金	79	97	+17
その他	6,812	7,689	+876
固定負債	19,595	15,629	△ 3,966
長期借入金	9,426	5,174	△ 4,251 ②
その他	10,169	10,454	+285
負債合計	59,450	58,563	△ 887
純資産合計	95,072	98,587	+3,515
負債純資産合計	154,522	157,150	+2,627

貸借対照表のポイント

① 受取手形及び売掛金 (前期末差+2,659百万円)
買掛金 (前期末差+1,902百万円)

ライセンス販売の増加などによる増加

② 短期借入金 (前期末差△4,863百万円)
コマーシャル・ペーパー (前期末差+2,000百万円)
長期借入金 (前期末差△4,251百万円)

約定返済に伴い、合計で7,115百万円の減少

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2013年1-9月 実績	2014年12月期 3Q累計実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,350	11,325
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,636	△ 3,854
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,441	△ 8,156
現金及び現金同等物に係る換算差額	218	2
現金及び現金同等物の増減額	1,491	△ 682
現金及び現金同等物の期首残高	11,631	14,342
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	12	135
連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増加額	0	102
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,135	13,897

キャッシュ・フローのポイント

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
前期が決算期変更に伴う変則決算（9ヵ月）であったことに伴い税金の支払額が減少したこと、および消費税増税に伴い未払消費税が増加したことなどにより、収入が増加しました。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
自社製品（ソフトウェア）や設備投資等の固定資産取得の他、余資運用（投資有価証券の取得）による支出がありました。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー
前年より引き続き借入金の返済を進めました。

連結 S I 事業の受注高・受注残高

(単位:百万円)

	2014年12月期 3Q累計実績						
	期首受注残高	受注高	前同比	売上高	前同比	期末受注残高	前同比
SI事業 合計	26,337	105,691	107.1%	104,815	105.7%	27,213	104.4%
システム構築	16,830	60,463	102.2%	58,820	100.1%	18,473	106.8%
組込系/制御系ソフトウェア	7,651	28,725	102.4%	28,276	98.9%	8,100	106.4%
業務系ソフトウェア	9,178	31,738	102.0%	30,543	101.3%	10,372	107.0%
プロダクト・サービス	9,507	45,227	114.6%	45,994	113.7%	8,740	99.7%
プロダクト・サービス	6,453	30,861	122.3%	31,448	122.5%	5,865	120.6%
アウトソーシング	3,054	14,366	100.9%	14,545	98.5%	2,874	73.7%

受注高・受注残高のポイント

● 受注高のポイント

- ・システム構築分野
組込系/制御系ソフトウェアにおいて、自動車・FAなどの機械制御系が好調に推移しました。また、業務系ソフトウェアでは前年に単体で受注した金融系大型案件の反動減があったものの、製造業やインターネットビジネス関連などが伸長し増加しました。
- ・プロダクト・サービス分野
単体においてアウトソーシングで主要顧客案件終了の影響があったものの、ライセンスビジネスが好調に推移し、増加しました。

● 受注残高のポイント

- ・システム構築分野
3Q(7-9月)における組込系/制御系ソフトウェアの受注が前同比119.1%と好調であったため、受注残高も増加しました。
- ・プロダクト・サービス分野
主要顧客の長期案件終了の影響により、アウトソーシングが減少しました。

BYOD推進企業



※ 本資料に掲載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて合理的と判断したものです。実際の業績は市場動向、経済情勢など様々な要因の変化により大きく異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。
また、資料配布の目的が、当社株式の保有継続および追加購入を推奨するものではないことも、併せてご理解いただきますようお願い申し上げます。